

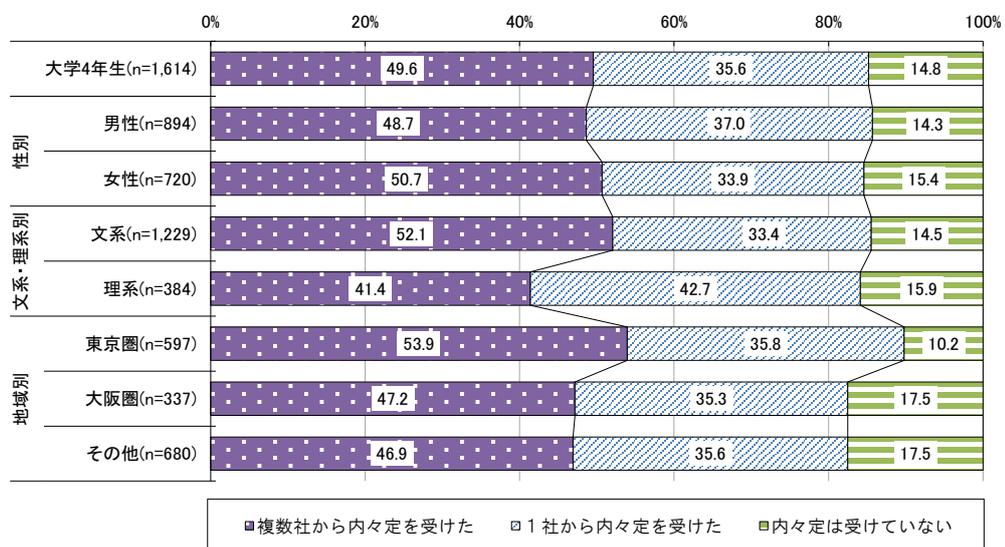
5. 内々定に関する状況

(1) 平成 27 年 10 月 1 日時点での内々定の状況

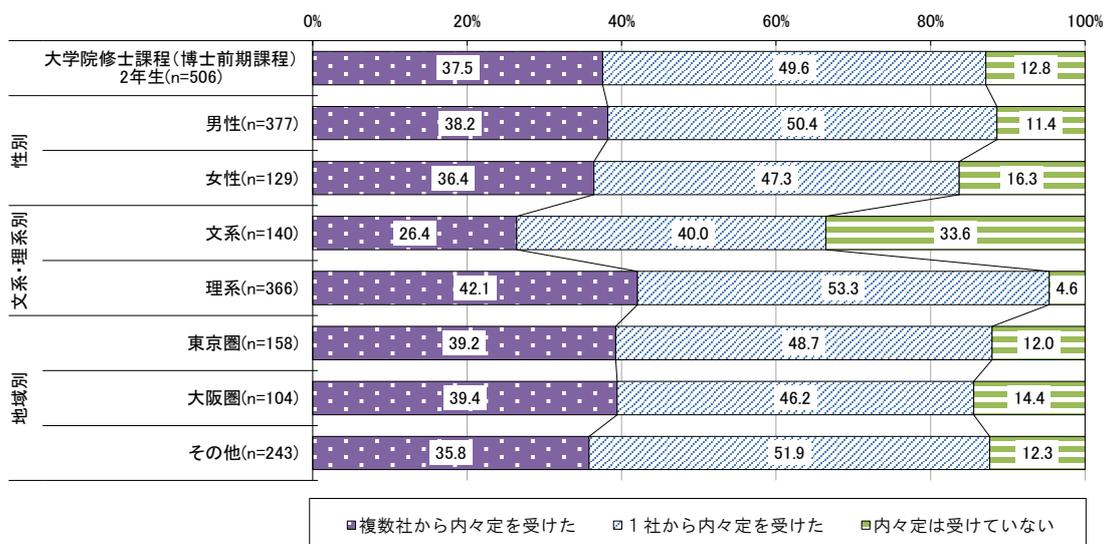
平成 27 年 10 月 1 日時点の内々定の状況についてたずねたところ、大学 4 年生・大学院修士課程（博士前期課程）2 年生ともに、9 割近くの者が、内々定を受けている状況にある（図表 5-1-1、図表 5-1-2）。なお、大学 4 年生の 49.6%、大学院修士課程（博士前期課程）2 年生の 37.5%が、「複数社から内々定を受けた」と回答している。

また、属性別にみると、大学院修士課程（博士前期課程）2 年生について、理系の学生では内々定を受けた割合は 95.4%であるが、文系の学生では 66.4%となっている。

図表 5-1-1 大学 4 年生、平成 27 年 10 月 1 日時点での内々定の状況



図表 5-1-2 大学院修士課程（博士前期課程）2 年生、平成 27 年 10 月 1 日時点での内々定の状況



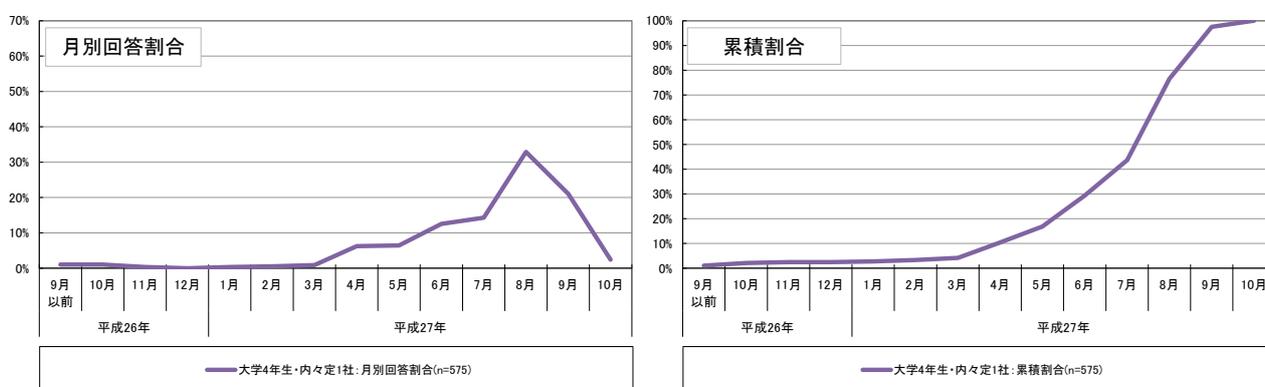
(2) 内々定を受けた時期

①内々定を受けた時期（1社から内々定を受けた者）

内々定を受けた時期についてたずねたところ、「1社から内々定を受けた」者については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年8月」の割合が最も高くなっている（各32.9%、39.5%）（図表5-2-1、図表5-2-2）。ただし、大学4年生について、次いで回答割合が高いのが「平成27年9月」であるのに対して、大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、「平成27年6月」となっている。

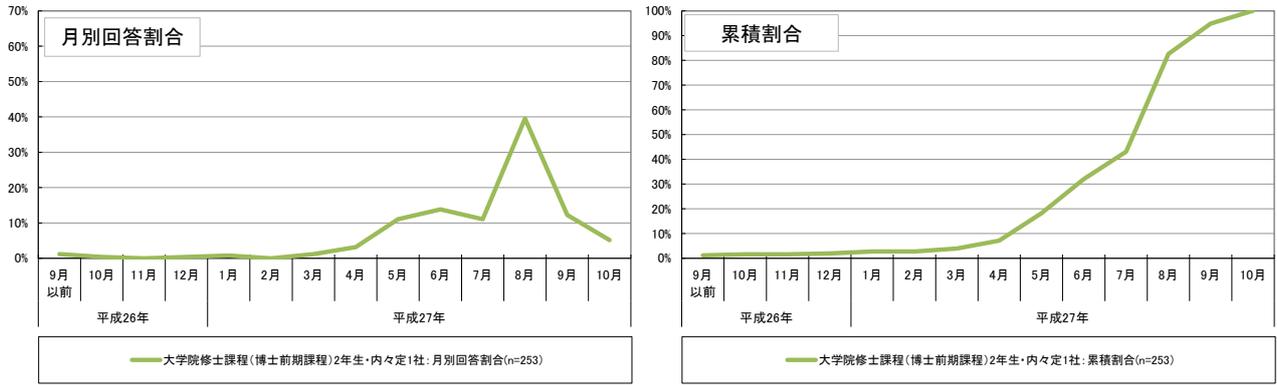
また、累積割合では、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、4割以上（各43.7%、43.1%）の者が平成27年7月以前に内々定を受けたと回答している。

図表 5-2-1 大学4年生、内々定を受けた時期（1社から内々定を受けた者）



	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.0%	1.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.5%	0.9%	6.3%	6.4%	12.5%	14.3%	32.9%	21.0%	2.4%
累積割合	1.0%	2.1%	2.4%	2.4%	2.8%	3.3%	4.2%	10.4%	16.9%	29.4%	43.7%	76.5%	97.6%	100.0%

図表 5-2-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、内々定を受けた時期
（1社から内々定を受けた者）



	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.2%	0.4%	0.0%	0.4%	0.8%	0.0%	1.2%	3.2%	11.1%	13.8%	11.1%	39.5%	12.3%	5.1%
累積割合	1.2%	1.6%	1.6%	2.0%	2.8%	2.8%	4.0%	7.1%	18.2%	32.0%	43.1%	82.6%	94.9%	100.0%

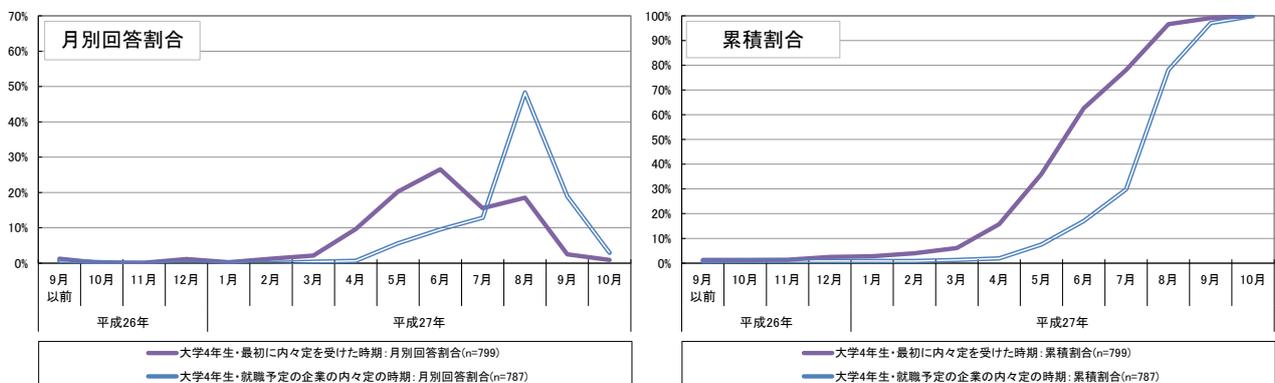
②内々定を受けた時期（複数社から内々定を受けた者）

内々定を受けた時期に関して「複数社から内々定を受けた」と回答した者の「最初に内々定を受けた時期」についてみると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「平成27年6月」との回答割合が最も高く（各26.5%、21.7%）、次いで「平成27年5月」の割合が高くなっている（図表5-2-3、図表5-2-4）。

他方で「就職予定の企業の内々定を受けた時期³⁸」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「平成27年8月」の割合が最も高くなっている（各48.3%、47.4%）。

なお、大学4年生に関して累積割合では、平成27年7月以前に最初の内々定を受けたと回答した者が78.1%である一方、就職予定の企業の内々定については、70.1%の者が平成27年8月以降に受けたと回答している。

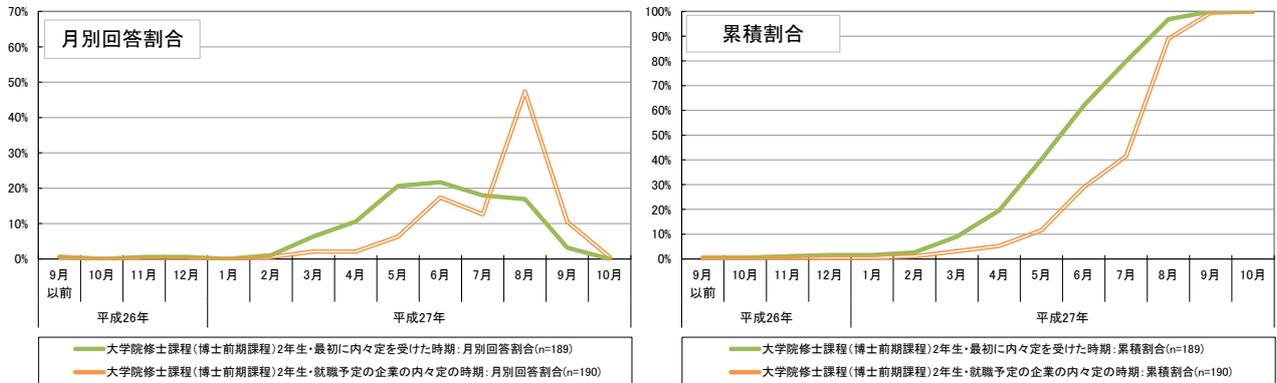
図表 5-2-3 大学4年生、内々定を受けた時期（複数社から内々定を受けた者）



最初の内々定	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.3%	0.0%	0.1%	1.1%	0.3%	1.3%	2.1%	9.6%	20.3%	26.5%	15.5%	18.5%	2.5%	0.9%
累積割合	1.3%	1.3%	1.4%	2.5%	2.8%	4.0%	6.1%	15.8%	36.0%	62.6%	78.1%	96.6%	99.1%	100.0%
就職予定の内々定	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.6%	5.6%	9.5%	12.8%	48.3%	18.9%	2.9%
累積割合	0.6%	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	1.3%	1.9%	7.5%	17.0%	29.9%	78.1%	97.1%	100.0%

³⁸ 「就職予定の企業の内々定」の集計に関して、「就職予定の企業はない」と回答した者（大学4年生：13件、大学院修士課程（博士前期課程）2年生：1件）はここでは集計の対象外とした。

図表 5-2-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、内々定を受けた時期
（複数社から内々定を受けた者）

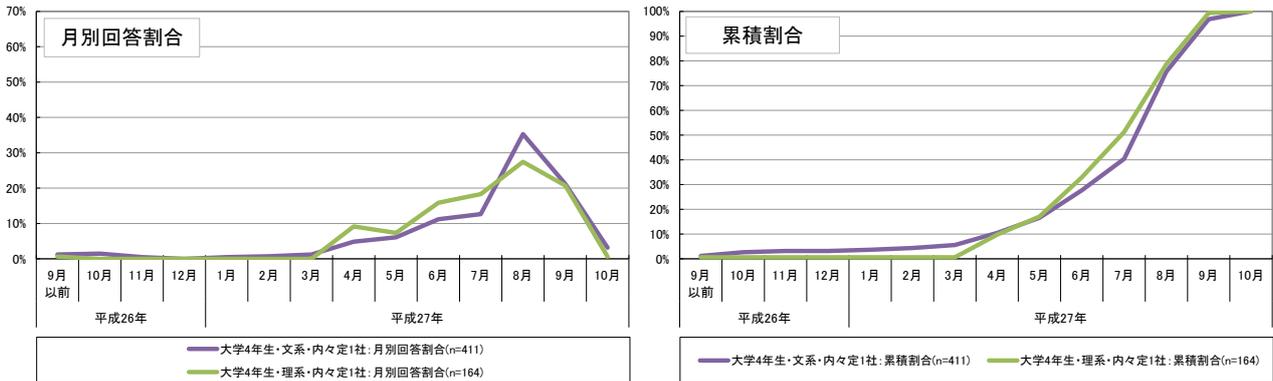


最初の内々定	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.5%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	1.1%	6.3%	10.6%	20.6%	21.7%	18.0%	16.9%	3.2%	0.0%
累積割合	0.5%	0.5%	1.1%	1.6%	1.6%	2.6%	9.0%	19.6%	40.2%	61.9%	79.9%	96.8%	100.0%	100.0%
就職予定の内々定	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	2.1%	2.1%	6.3%	17.4%	12.6%	47.4%	10.5%	0.5%
累積割合	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	1.1%	3.2%	5.3%	11.6%	28.9%	41.6%	88.9%	99.5%	100.0%

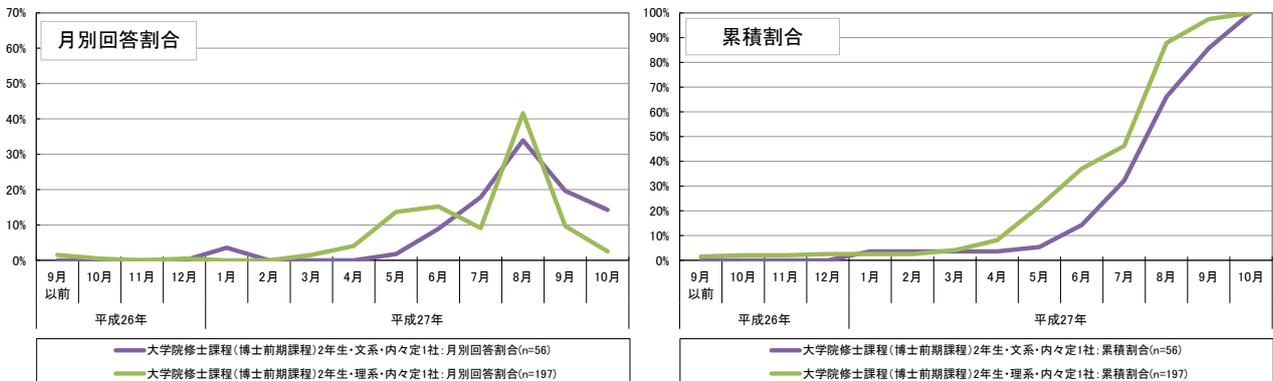
③文系・理系別、内々定を受けた時期（1社から内々定を受けた者）

「1社から内々定を受けた」者の内々定を受けた時期についてみると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「平成27年8月」の割合が最も高いのは共通しているが、特に大学院修士課程（博士前期課程）2年生では、理系の学生で文系の学生に比べてより早い時期に内々定を受けたと回答している者の割合が高くなっている（図表5-2-5、図表5-2-6）。

図表 5-2-5 大学4年生の文系・理系別、内々定を受けた時期（1社から内々定を受けた者）



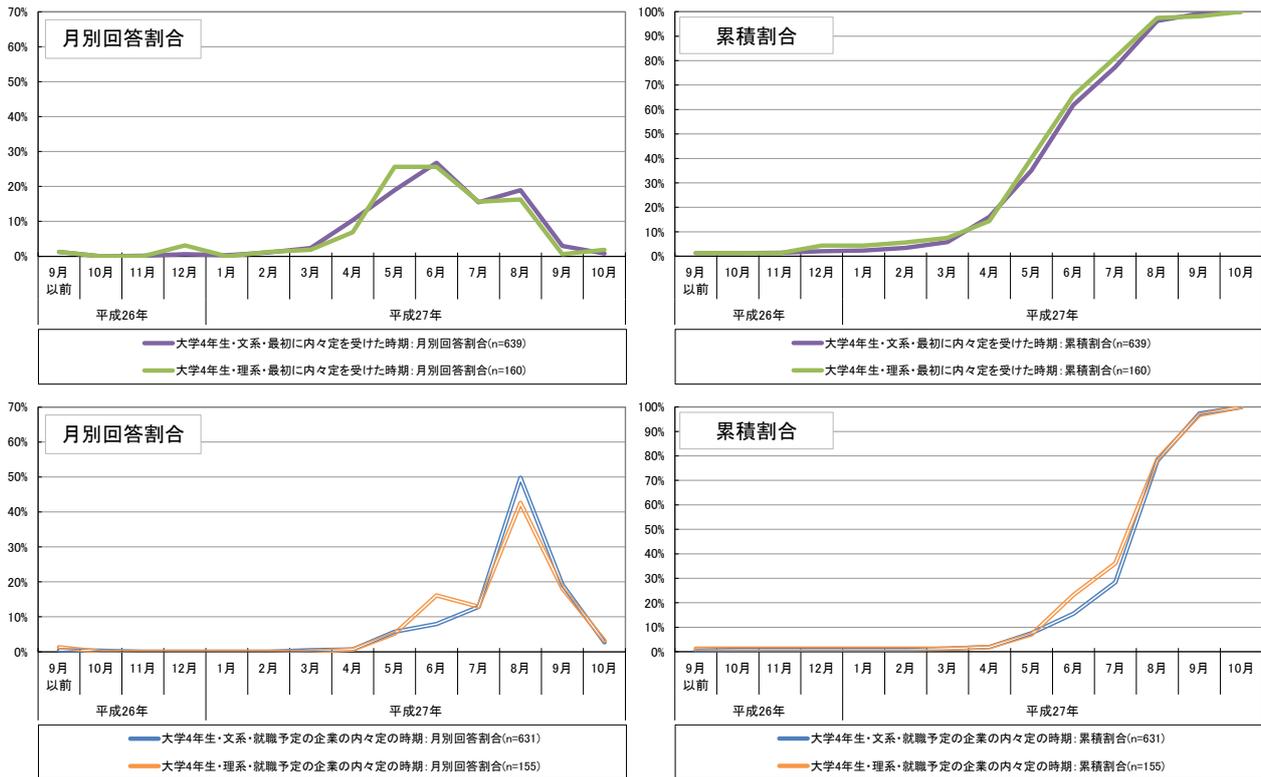
図表 5-2-6 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、内々定を受けた時期（1社から内々定を受けた者）



④文系・理系別、内々定を受けた時期（複数社から内々定を受けた者）

「複数社から内々定を受けた」と回答した者の内々定を受けた時期について文系・理系別にみると、大学4年生の理系の学生では「最初に内々定を受けた時期」として「平成27年5月」が最も回答割合が高くなっており、また、「就職予定の企業の内々定を受けた時期」についても「平成27年6月」の回答割合が比較的高くなっており、文系の学生との間に若干の差異が見られる（図表5-2-7）。

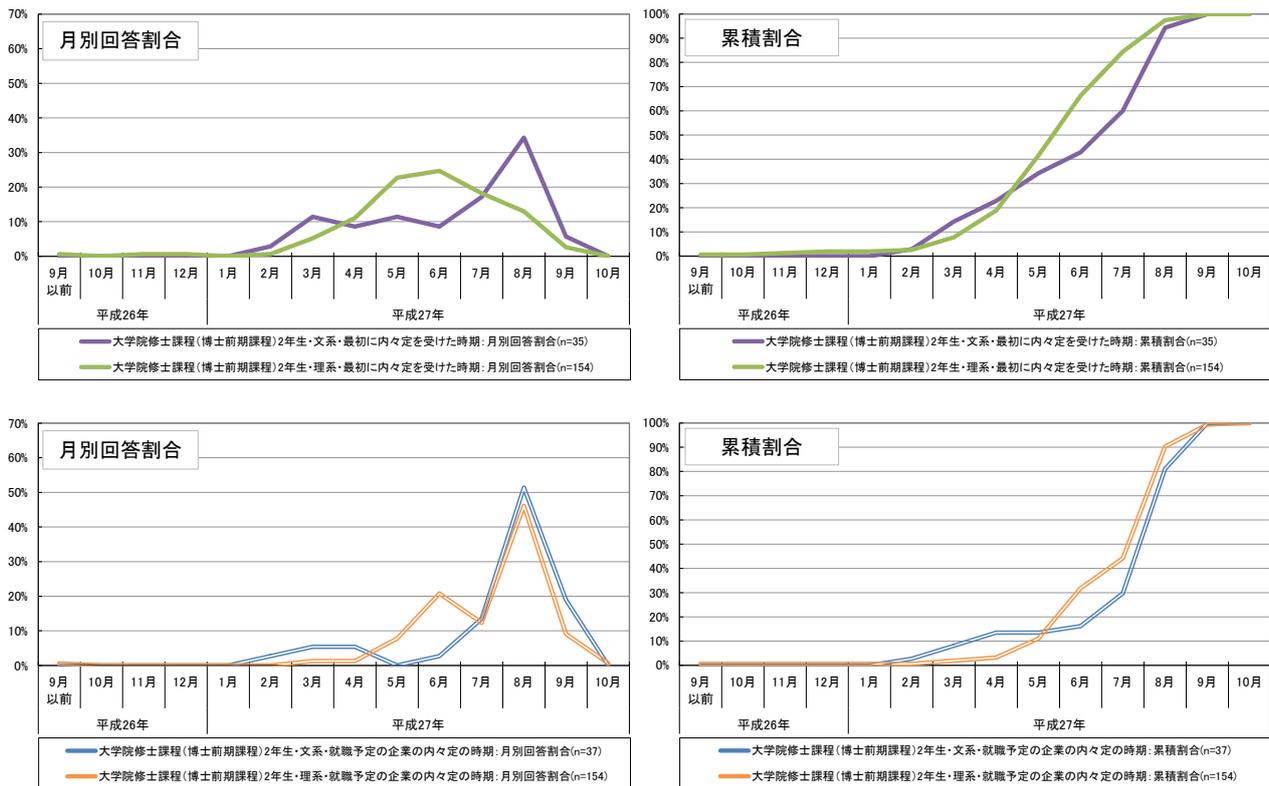
図表5-2-7 大学4年生、文系・理系別、内々定を受けた時期（複数社から内々定を受けた者）



「複数社から内々定を受けた」と回答した者の内々定を受けた時期について文系・理系別にみると、大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関してはその差異が大きく、「最初に内々定を受けた時期」として、理系の学生では「平成27年6月」の割合が最も高いのに対して、文系の学生では「平成27年8月」が最も高くなっている（図表5-2-8）。

「就職予定の企業の内々定を受けた時期」についても、理系の学生では「平成27年6月」の割合が比較的高くなっている³⁹。

図表 5-2-8 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、文系・理系別、内々定を受けた時期（複数社から内々定を受けた者）

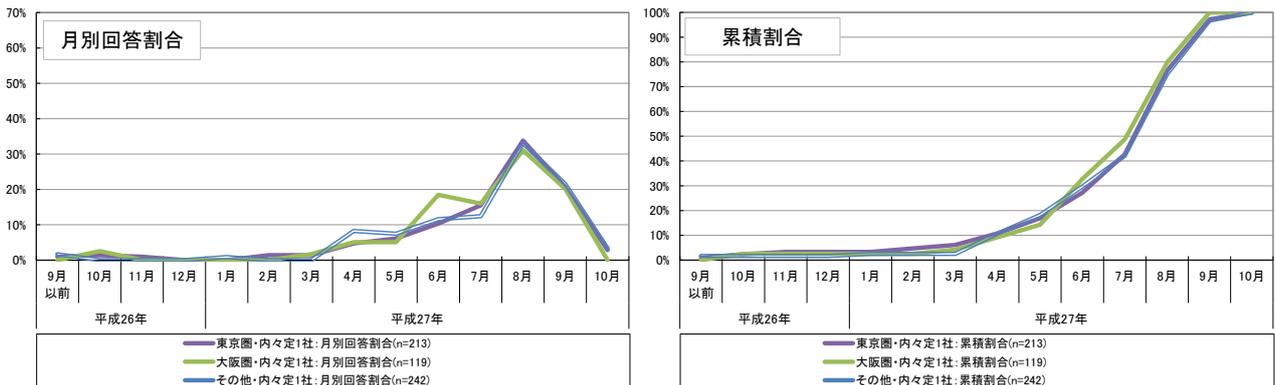


³⁹ 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系の学生で、「最初に内々定を受けた時期」及び「就職予定の企業の内々定を受けた時期」について、「平成27年3月」との回答割合が理系の学生よりも高いという特徴も見られ、文系の学生のほうが活動時期についてより多様であるということも考えられる。なお、文系の学生について集計対象の件数が比較的少ないという点にも留意が必要である。

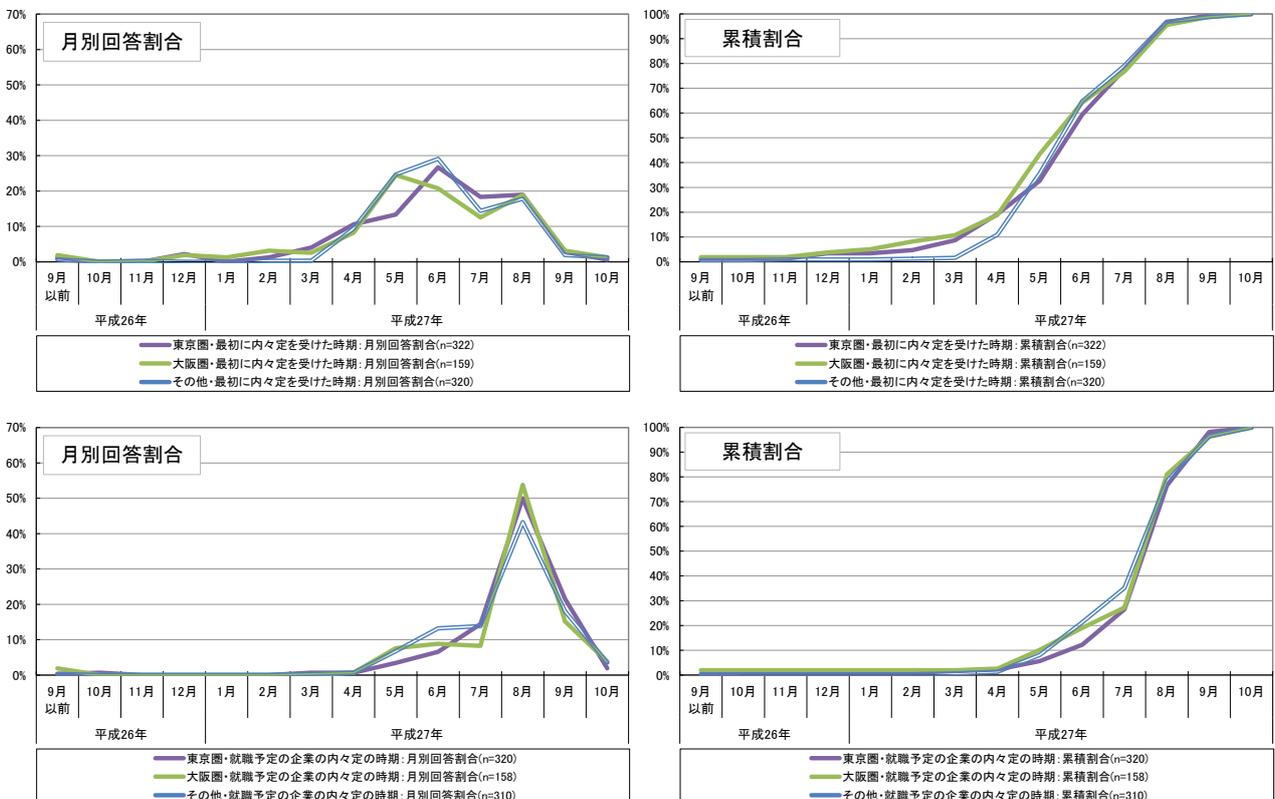
⑤大学4年生の大学の所在地域別、内々定を受けた時期

大学4年生について、大学の所在地域別に内々定を受けた時期についてみると、特に「複数社から内々定を受けた」と回答した者に関して、「東京圏」や「大阪圏」の学生では、「最初に内々定を受けた時期」がより早い者の割合が比較的高く、他方で、「就職予定の企業の内々定を受けた時期」については、より遅い時期であった者の割合が比較的高くなっている（図表 5-2-9、図表 5-2-10）。

図表 5-2-9 大学4年生の大学の所在地域別、内々定を受けた時期
(1社から内々定を受けた者)



図表 5-2-10 大学4年生の大学の所在地域別、内々定を受けた時期
(複数社から内々定を受けた者)



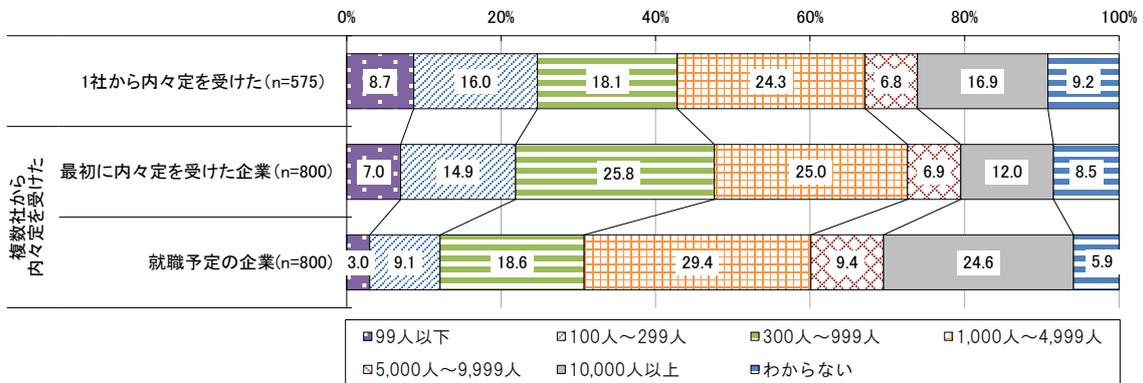
(3) 内々定先の企業の業種・規模等

①内々定先の企業の企業規模（従業員数）

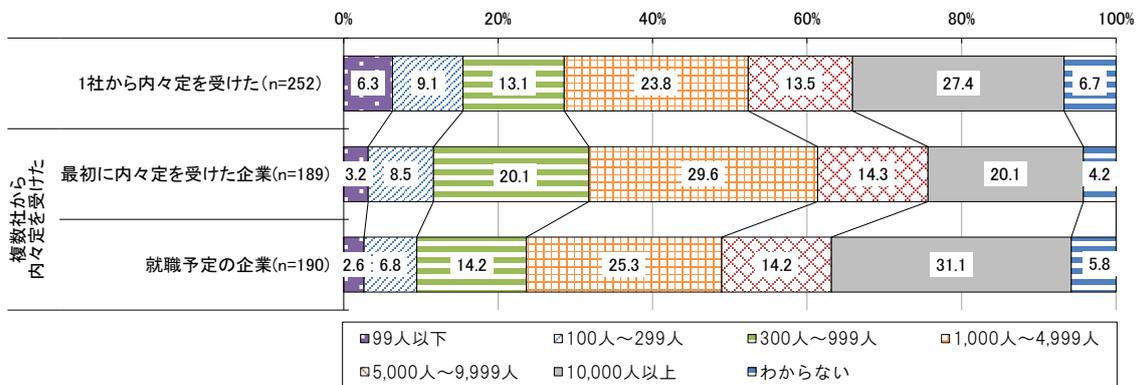
内々定を受けた企業の企業規模（従業員数）について、1社から内々定を受けた者、複数社から内々定を受けた者のそれぞれについて集計を行った。なお、複数社から内々定を受けた者については、最初に内々定を受けた企業と、就職予定の企業のそれぞれについて把握した。

これらのうち、特に複数社から内々定を受けた者についてみると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、最初に内々定を受けた企業に対して就職予定の企業のほうが、相対的に企業規模（従業員数）が大きい傾向にあることわかる（図表5-3-1、図表5-3-2）。

図表 5-3-1 大学4年生、内々定を受けた企業の企業規模（従業員数）



図表 5-3-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、内々定を受けた企業の企業規模（従業員数）

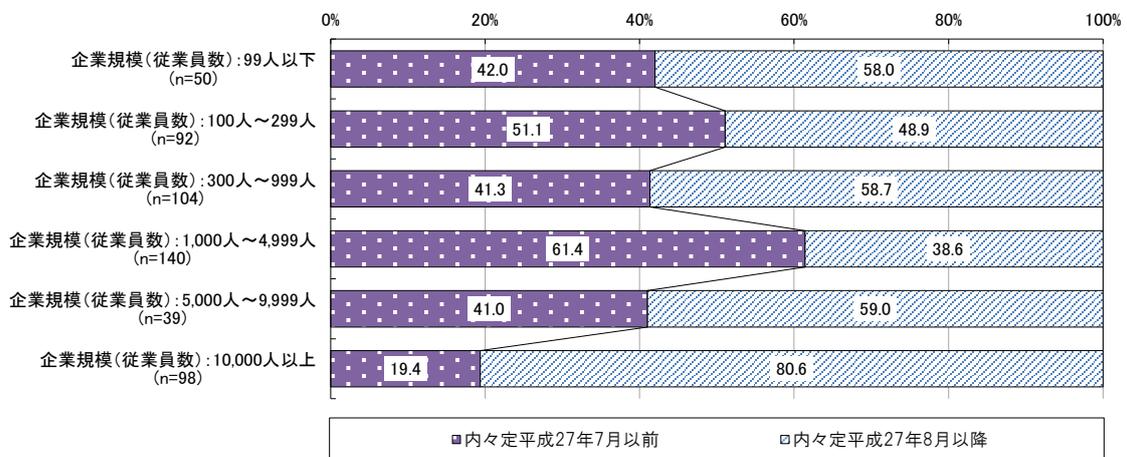


①内々定先の企業の企業規模（従業員数）と内々定時期との関係

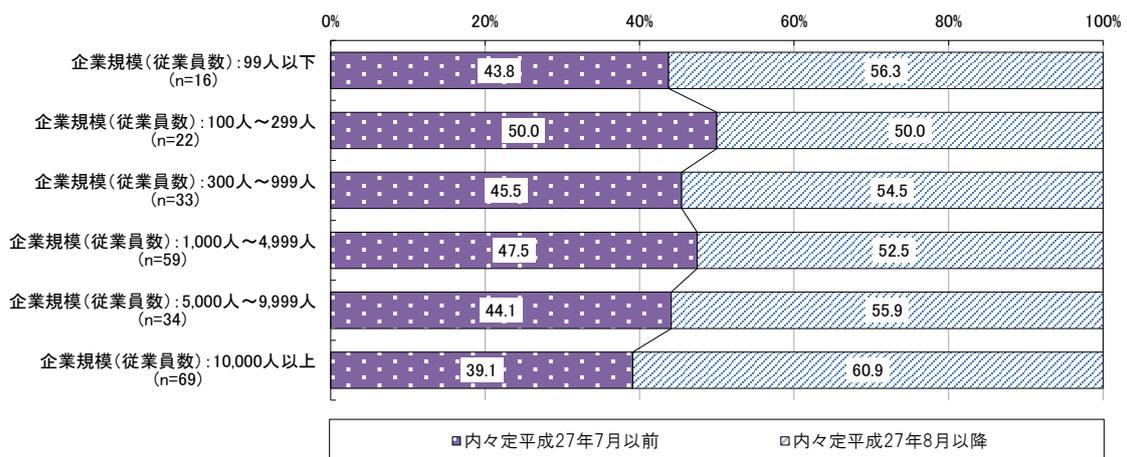
「1社から内々定を受けた」者について、平成27年7月以前に内々定を受けた者と、8月以降に内々定を受けた者とに分類して、「内々定先の企業規模（従業員数）」との関係についてみると⁴⁰、特に大学4年生の場合、企業規模（従業員数）が「10,000人以上」の場合には、内々定を受けた時期が「平成27年8月以降」である割合が80.6%と比較的高くなっている（図表5-3-3）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関しても、内々定先の企業規模（従業員数）が「10,000人以上」の場合には、内々定の時期が「平成27年8月以降」であった割合が他と比べて若干高くなっている（図表5-3-4）。

図表 5-3-3 大学4年生の内々定先の企業規模（従業員数）別、内々定を受けた時期
（1社から内々定を受けた者）



図表 5-3-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の内々定先の企業規模（従業員数）別、内々定を受けた時期（1社から内々定を受けた者）

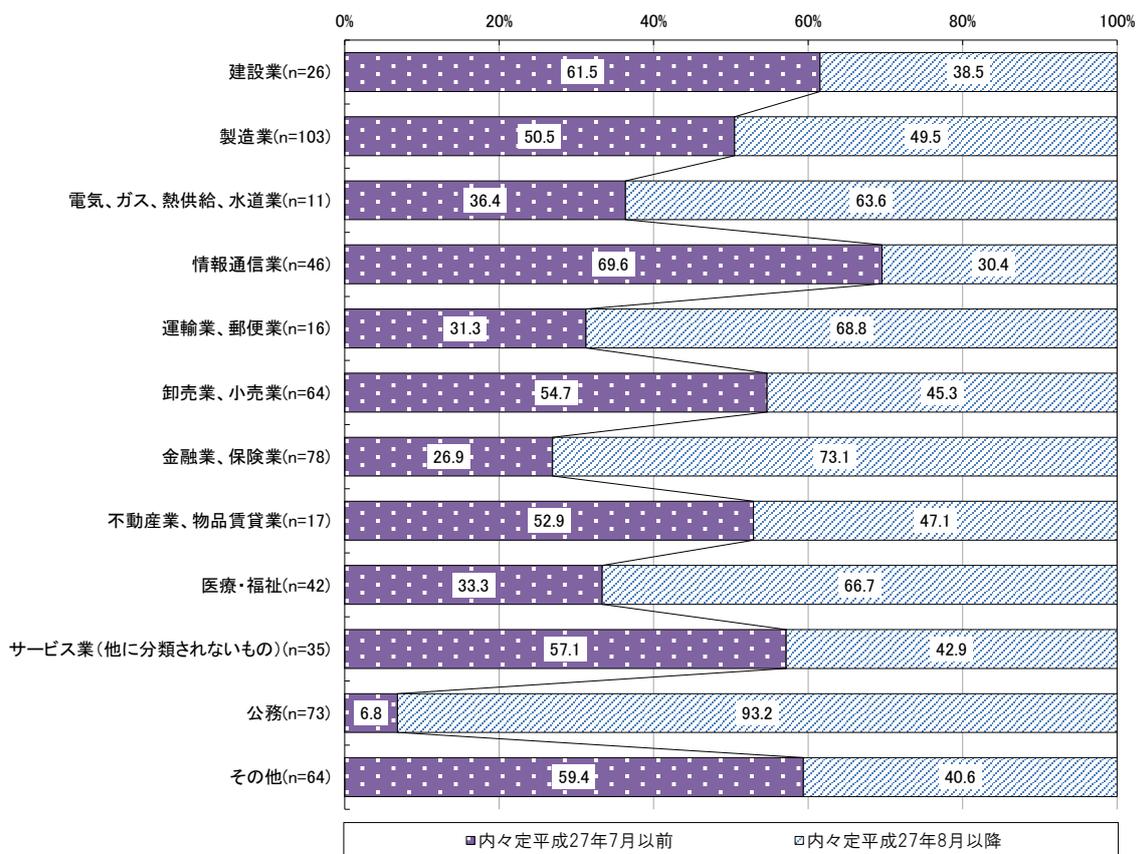


⁴⁰ 企業規模（従業員数）について「わからない」との回答した者は、ここでは集計の対象外とした。

②内々定先の企業の業界と内々定時期との関係

大学4年生の「1社から内々定を受けた」者について、「内々定を受けた先の業界」別⁴¹に、平成27年7月以前に内々定を受けた者と8月以降に内々定を受けた者との割合をみると、「公務」では「平成27年8月以降」の割合が93.2%となっているほか、「金融業、保険業」でもその割合が73.1%と比較的高くなっている（図表5-3-5）。他方で、「情報通信業」では「平成27年7月以前」が69.6%となっており、業界別に違いがあることがうかがえる。

図表 5-3-5 大学4年生の内々定を受けた先の業界別、内々定を受けた時期
(1社から内々定を受けた者)



⁴¹ 業界について集計対象の度数が10件以下の分類は、「その他」の分類として集計した。ここでの「その他」には、「学術研究、専門・技術サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学修支援業」「複合サービス業」が含まれる。また、集計対象度数の関係で、ここでは大学4年生のみを集計の対象とした。

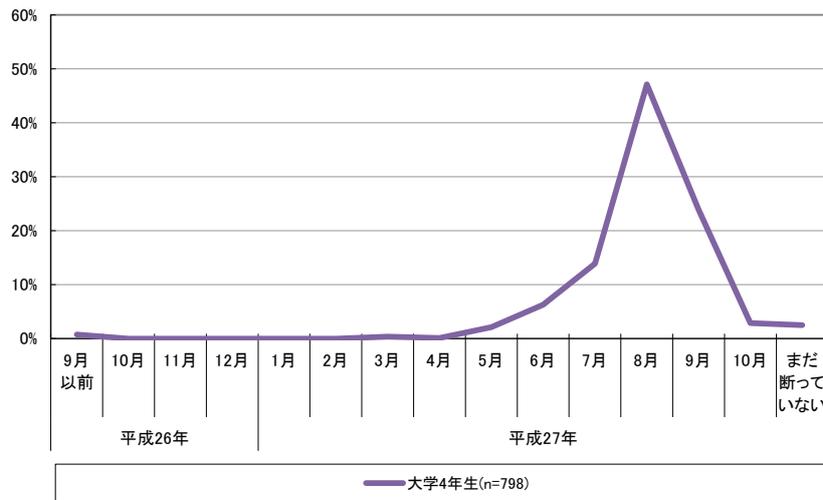
(4) 複数社から内々定を受けた場合の状況

①他の内々定を断った時期

「複数社から内々定を受けた」者について、「就職予定の企業 1 社を残して他の企業からの内々定を断った時期」についてみると、大学 4 年生・大学院修士課程（博士前期課程）2 年生ともに「平成 27 年 8 月」の回答割合が最も高くなっている（各 47.1%、47.4%）（図表 5-4-1、図表 5-4-2）。

大学院修士課程（博士前期課程）2 年生の場合には、「平成 27 年 6 月」の回答割合も比較的高くなっている。なお、若干ではあるが、「まだ断っていない」との回答もあった。

図表 5-4-1 大学 4 年生、複数社から内々定を受けた者が 1 社を残して内々定を断った時期



	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	まだ断っていない
月別回答割合	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.1%	2.1%	6.3%	13.9%	47.1%	23.9%	2.9%	2.5%

図表 5-4-2 大学院修士課程（博士前期課程）2 年生、複数社から内々定を受けた者が 1 社を残して内々定を断った時期



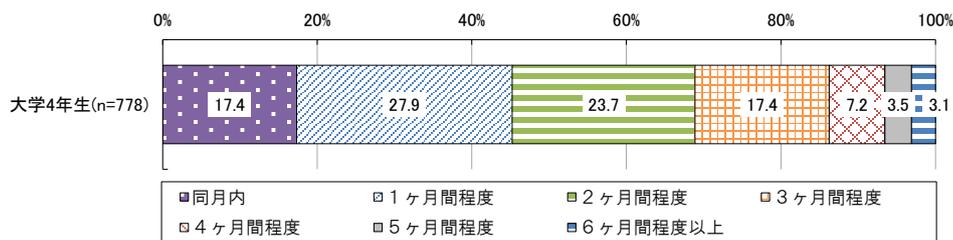
	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	まだ断っていない
月別回答割合	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.1%	4.7%	16.3%	13.7%	47.4%	12.6%	0.5%	1.6%

②他の内々定を断るまでの期間

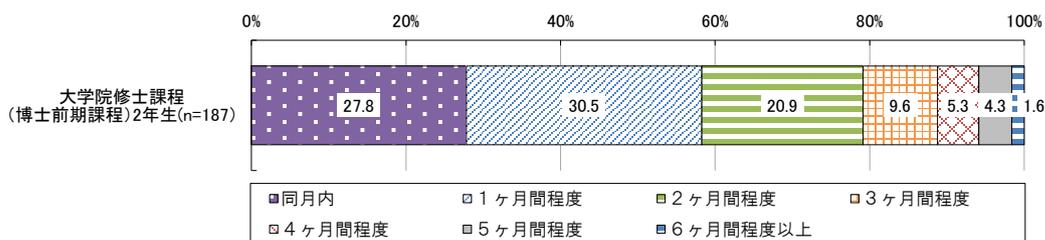
「最初に内々定を受けた時期」から「就職予定の企業1社を残して他の企業からの内々定を断った時期」の間の期間について集計すると⁴²、「1ヶ月間程度」の割合が大学4年生では27.9%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では30.5%と、ともに最も高くなっている（図表5-4-3、図表5-4-4）。

なお、大学院修士課程（博士前期課程）2年生に比べ、大学4年生のほうが断るまでの期間が相対的に長い者の割合が高くなっている⁴³。

図表 5-4-3 大学4年生、複数社から内々定を受けた者が最初の内々定を受けてから1社を残して内々定を断るまでの期間



図表 5-4-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、複数社から内々定を受けた者が最初の内々定を受けてから1社を残して内々定を断るまでの期間



⁴² 期間を集計するにあたり、「また断っていない」と回答したものは集計対象外とした。なお、ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に内々定を受けた時期」が4月、「1社を残して内々定を断った時期」が5月というように、回答が異なる2ヶ月に渡っていることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で60日間の場合が含まれる。なお、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある点には留意が必要である。

⁴³ 図表には示していないが、「最初に内々定を受けた時期」と「就職予定の企業1社を残して他の企業からの内々定を断った時期」の回答の組み合わせについて把握したところ、大学4年生では平成27年6月に最初の内々定を受け、平成27年8月に断った場合がパターンとして最も多くなっていた。大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、平成27年6月に最初の内々定を受けて平成27年8月に断った者と、平成27年8月に最初の内々定を受けて同月に断ったという者が同数見られた。

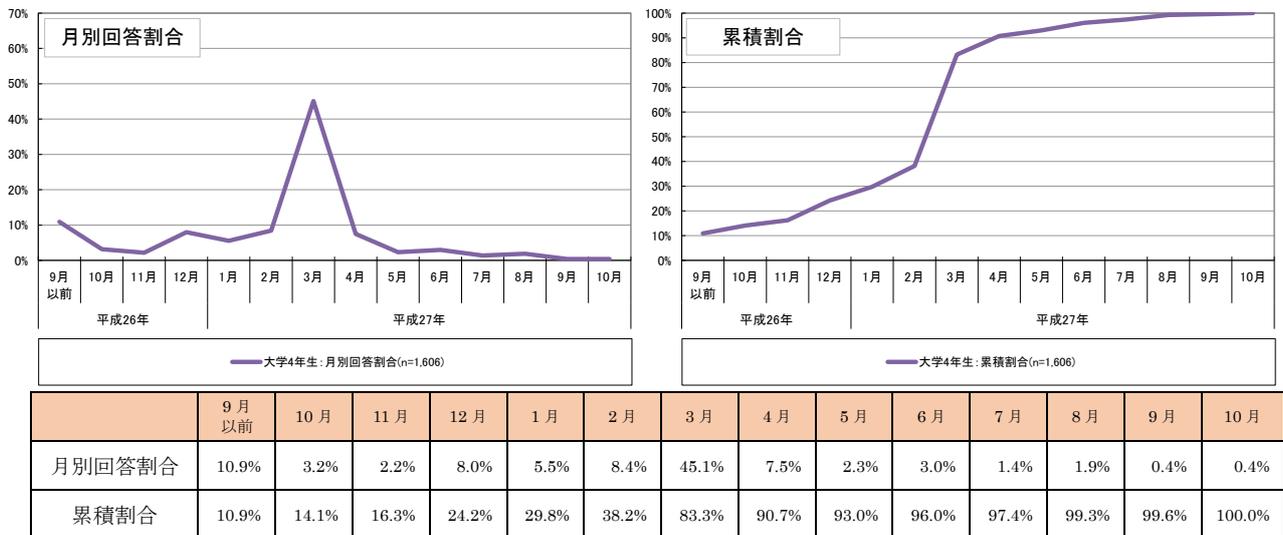
(5) 就職活動全体の期間の長さ

①就職活動の始まりの時期についての認識

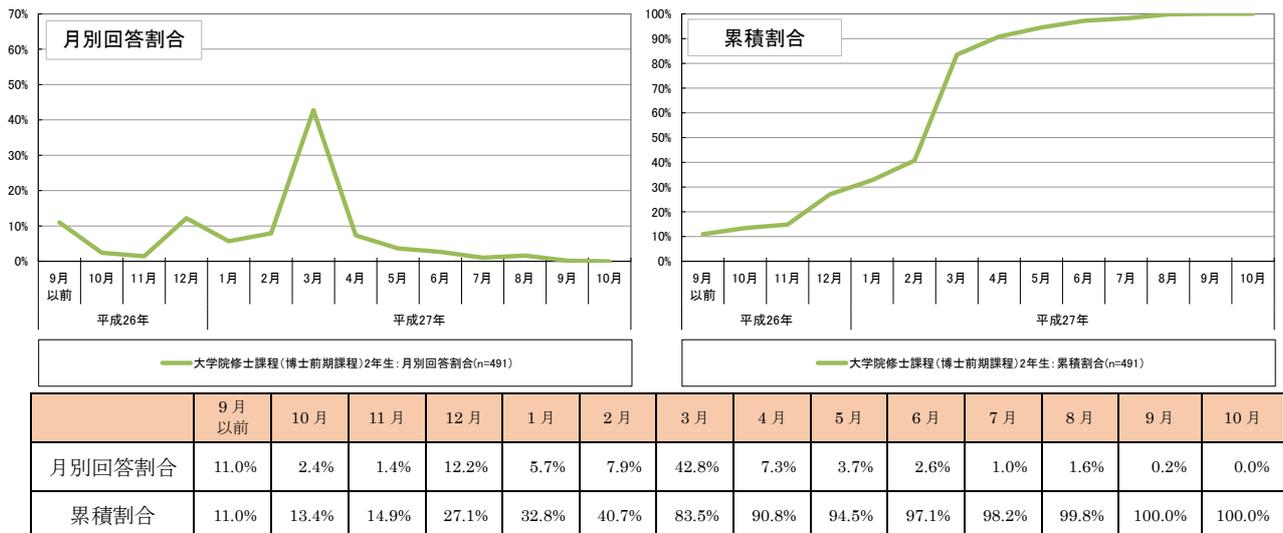
回答者自身の認識として、「就職活動が始まったと考える時期」についてたずねたところ⁴⁴、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「平成27年3月」との回答割合が最も高くなっている（各45.1%、42.8%）（図表5-5-1、図表5-5-2）。

ただし、平成27年2月以前と回答した者も多く、累積割合では、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、就職活動について約4割（各38.2%、40.7%）が平成27年2月以前に始まっていたと回答している。

図表 5-5-1 大学4年生、就職活動が始まったと考える時期



図表 5-5-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、就職活動が始まったと考える時期



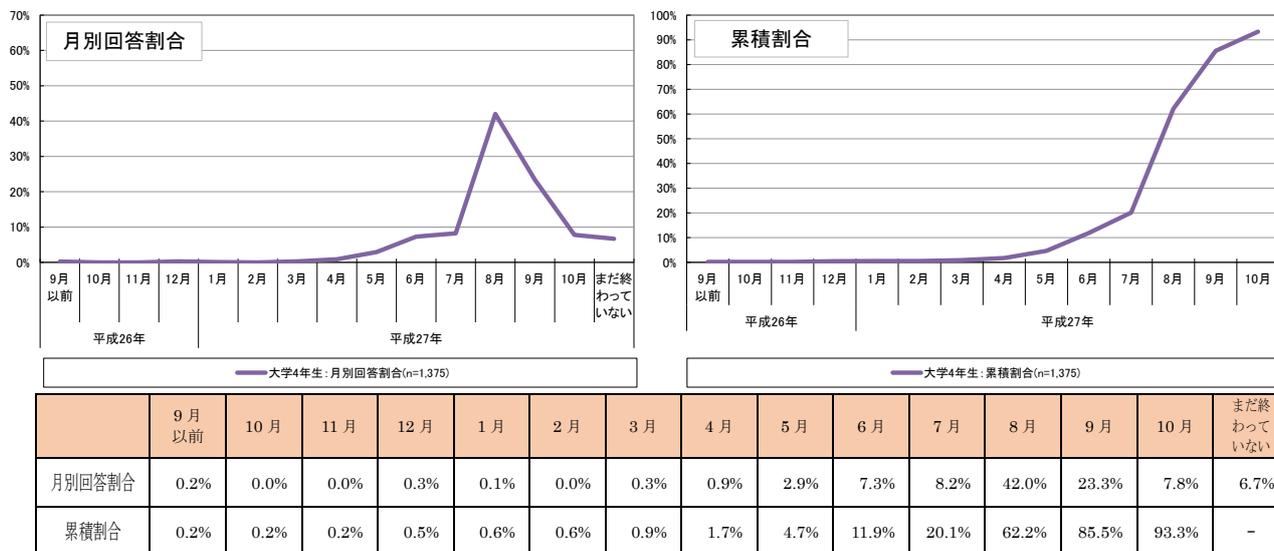
⁴⁴ 始まったと考える時期について「わからない」と回答した者（大学4年生：9件、大学院修士課程（博士前期課程）2年生：13件）は、ここでは集計の対象外とした。

②就職活動の終わりの時期についての認識

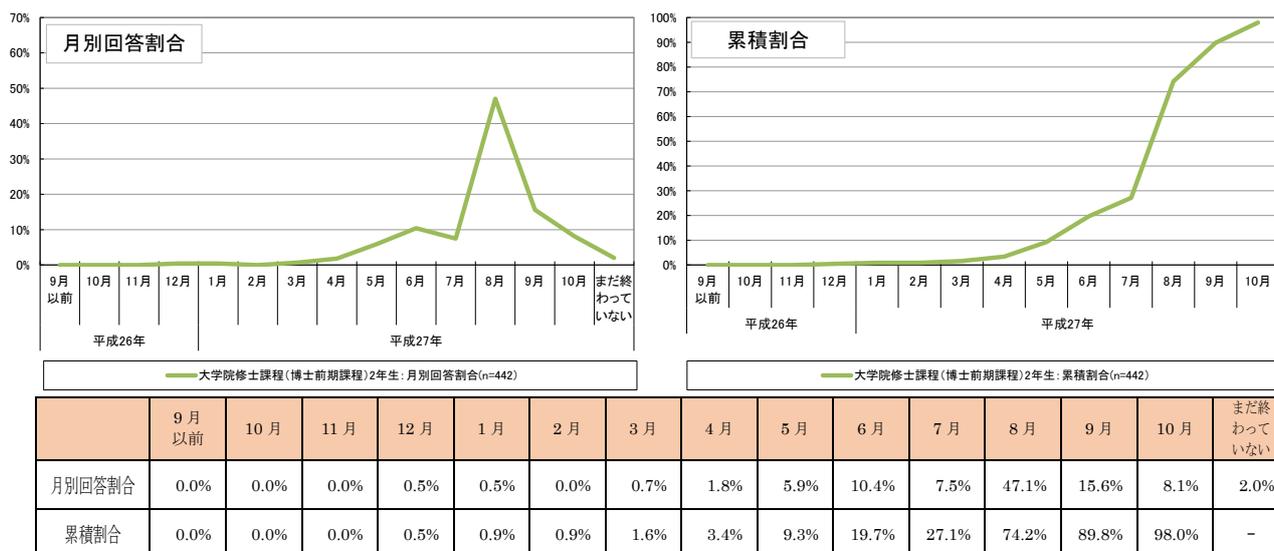
平成27年10月1日時点で内々定を1社以上受けたと回答した者に対して、「就職活動が終わったと考える時期」についてたずねたところ、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「平成27年8月」との回答割合が最も高くなっている（各42.0%、47.1%）（図表5-5-3、図表5-5-4）。

なお、累積割合⁴⁵では、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、就職活動が終わったと考える時期について平成27年7月以前と回答しているのは2割以上（各20.1%、27.1%）となっている。

図表 5-5-3 大学4年生、就職活動が終わったと考える時期



図表 5-5-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、就職活動が終わったと考える時期



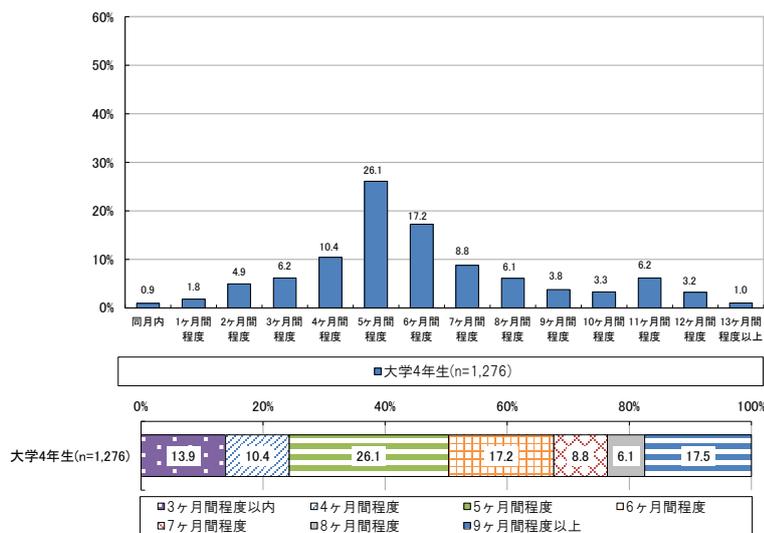
⁴⁵ 「まだ終わっていない」と回答した者がいるため、「平成27年10月」の時点でも累計割合のグラフは100%にならない。

③就職活動の始まりから終わりまでの期間

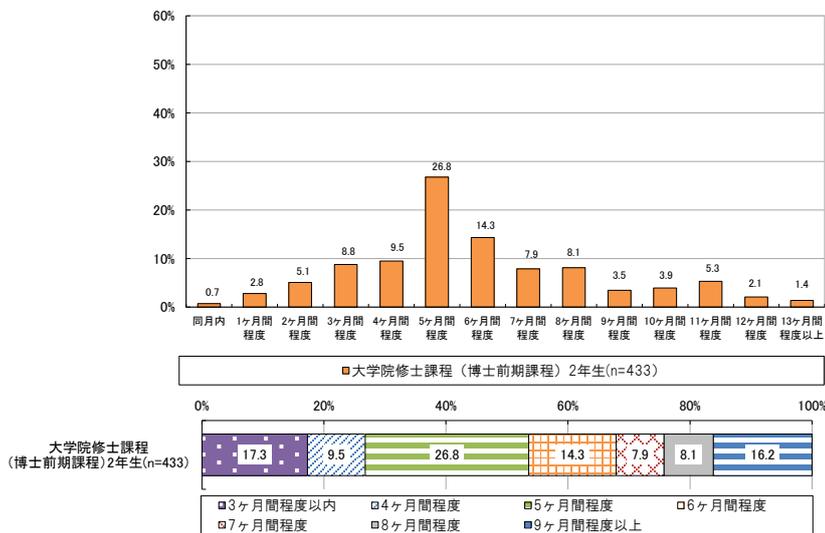
「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について集計すると⁴⁶、「5ヶ月間程度」が大学4年生で26.1%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では26.8%と、ともに割合が最も高く、次いで「6ヶ月間程度」が高くなっている（図表5-5-5、図表5-5-6）。

なお、1年以上との回答（「12ヶ月間程度」「13ヶ月間程度以上」の計）が、大学4年生では4.2%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では3.5%となっている。

図表 5-5-5 大学4年生、就職活動の始まりから終わりまでの期間



図表 5-5-6 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、就職活動の始まりから終わりまでの期間



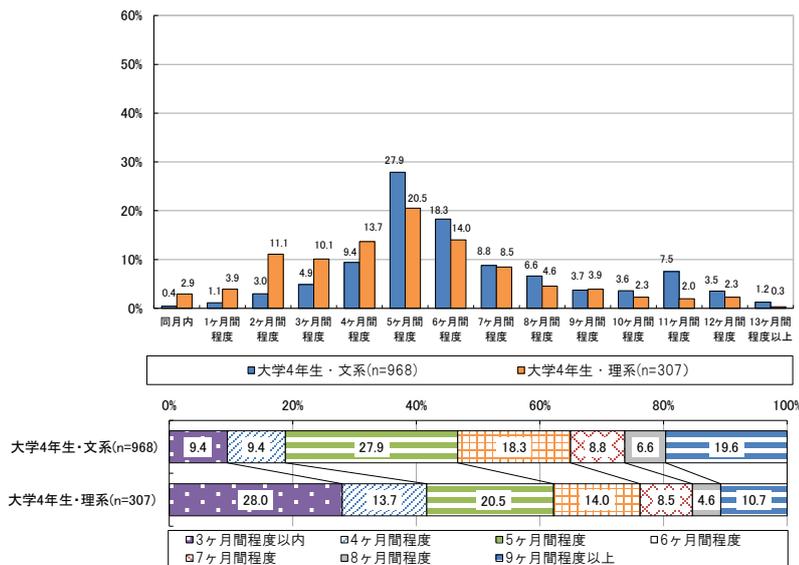
⁴⁶ 平成27年10月1日時点で内々定を1社以上受けたと回答した者が集計対象である。なお、始まったと考える時期について「わからない」と回答した者、ならびに、「終わったと考える時期」について「まだ終わっていない」と回答した者は集計の対象外とした。また、ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が4月、「就職活動が終わったと考える時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、就職活動を行っていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

④文系・理系別、就職活動の始まりから終わりまでの期間

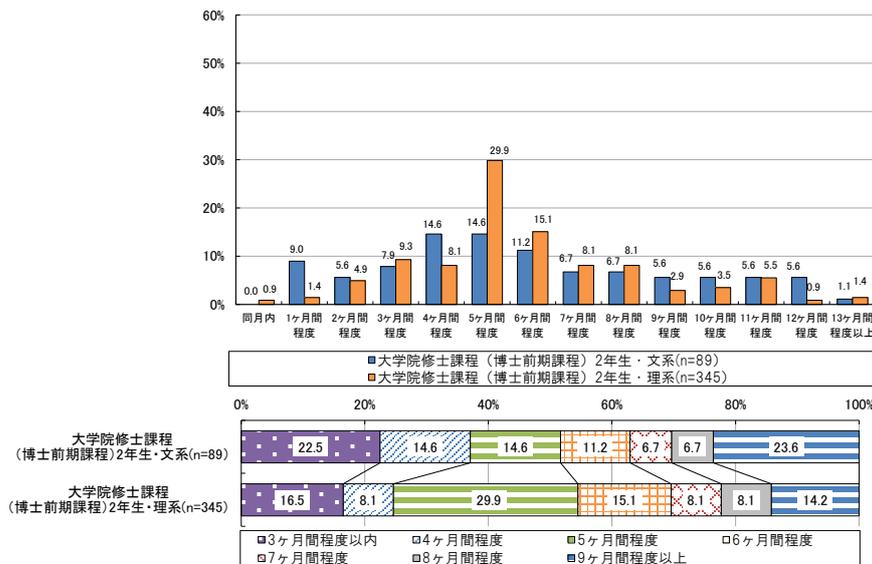
「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について文系・理系別にみると、大学4年生に関しては、文系の学生に比べて理系の学生のほうが、就職活動の期間が短かった者の回答割合が高くなっていることがわかる（図表 5-5-7）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生では、文系の学生について、「1ヶ月間程度⁴⁷」の者が9.0%と比較的高くなっている一方で、「12ヶ月間程度」の者も5.6%となっており、文系の学生では分散が大きいことがうかがえる（図表 5-5-8）。

図表 5-5-7 大学4年生の文系・理系別、就職活動の始まりから終わりまでの期間



図表 5-5-8 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、就職活動の始まりから終わりまでの期間

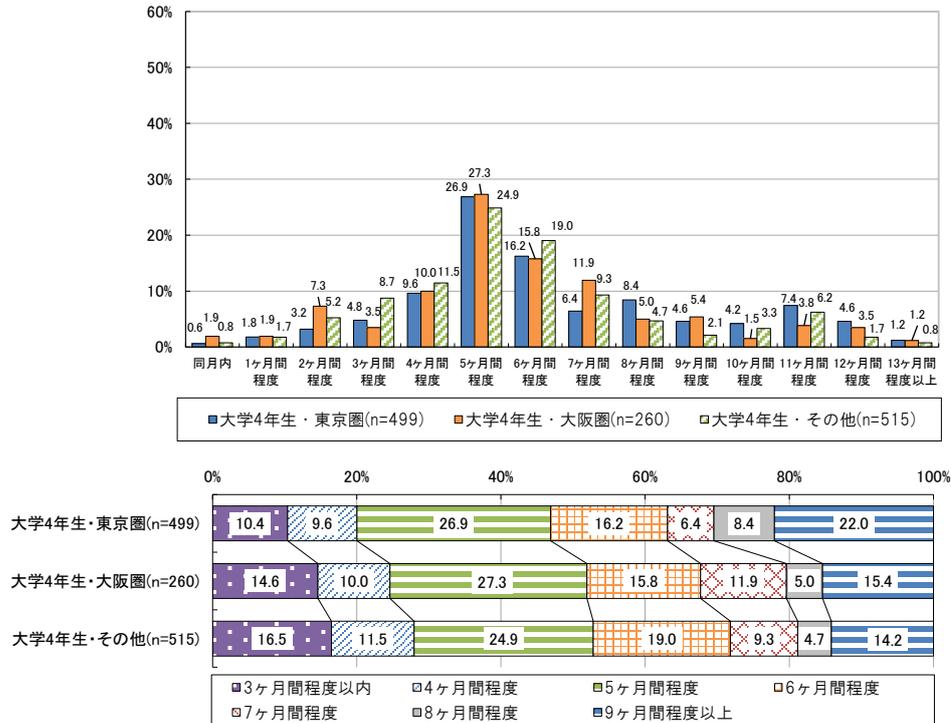


⁴⁷ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が4月、「就職活動が終わったと考える時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、就職活動を行っていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、就職活動の始まりから終わりまでの期間

大学4年生に関して、「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について大学の所在地域別にみると、「東京圏」の学生について、就職活動の期間⁴⁸がより長かった者の割合が高くなっている（図表5-5-9）。

図表 5-5-9 大学4年生の大学の所在地域別、就職活動の始まりから終わりまでの期間



⁴⁸ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が4月、「就職活動が終わったと考える時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、就職活動を行っていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。